

第44回	
日時	令和3年3月23日
会場	かわさき新産業創造センターAIRBIC (YouTube Liveによるオンライン同時配信)
参加者数	計133名 [会場：65名、オンライン：68名]
講師	森本 典繁 氏 [日本アイ・ビー・エム株式会社 常務執行役員 最高技術責任者 (CTO)]
テーマ	「世界を変革する量子コンピューター」
内容	日本アイ・ビー・エム株式会社 常務執行役員 最高技術責任者 (CTO) の森本 典繁氏をお招きし、「世界を変革する量子コンピューター」をテーマにお話いただきました。

第43回	
日時	令和2年10月13日
会場	川崎市コンベンションホール (Zoom・YouTube Liveによるオンライン同時配信)
参加者数	計120名 [会場：64名、オンライン：56名]
講師	前野 隆司 氏 [慶応義塾大学 大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授]
テーマ	「ポストコロナ社会を見据えた“幸せ”な経営学 ～Well-being社会の実現に向けて～」
内容	慶応義塾大学 大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授の前野 隆司氏をお招きし、「ポストコロナ社会を見据えた“幸せ”な経営学 ～Well-being社会の実現に向けて～」をテーマにお話いただきました。

第42回	
日時	令和2年2月12日
会場	キヤノン株式会社 本社
参加者数	[第1部]【施設見学】77名 [第2部]【講演】101名
講師	山田 昌敬 氏 [キヤノン株式会社 常務執行役員]
テーマ	「イメージング技術の最新動向と活用事例紹介」
内容	[第1部]【施設見学】ギャラリー [第2部]【講演】キヤノン株式会社 常務執行役員の山田 昌敬氏をお招きし、「イメージング技術の最新動向と活用事例紹介」をテーマにお話いただきました。

第41回	
日時	令和元年10月31日
会場	かわさき新産業創業センターAIRBIC
参加者数	83名
講師	窪田 規一 氏 [ペプチドリーム株式会社 取締役会長]
テーマ	「創薬開発におけるパラダイムシフトとバイオベンチャー創出について」
内容	ペプチドリーム株式会社 取締役会長の窪田 規一氏をお招きし、「創薬開発におけるパラダイムシフトとバイオベンチャー創出について」をテーマにお話しいただきました。

第40回	
日時	令和1年7月29日
会場	川崎市産業振興会館
参加者数	95名
講師	橋本 和仁 氏 [国立研究開発法人物質・材料研究機構 理事長]
テーマ	「日本経済を再生させる科学儀医術イノベーションの創造～知の社会実装に向けた国の取組～」
内容	国立研究開発法人物質・材料研究機構 理事長の橋本 和仁氏をお招きし、「日本経済を再生させる科学儀医術イノベーションの創造～知の社会実装に向けた国の取組～」をテーマにお話しいただきました。

第39回	
日時	平成31年1月30日
会場	株式会社 荏原製作所 本社
参加者数	108名
講師	前田 東一 氏 [株式会社 荏原製作所 取締役代表執行役社長]
テーマ	「最近の企業経営に求められる課題と対応について（上場産業機械メーカーにおける実践的報告）」
内容	株式会社 荏原製作所 取締役代表執行役社長の前田 東一氏をお招きし、「最近の企業経営に求められる課題と対応について（上場産業機械メーカーにおける実践的報告）」をテーマにお話しいただきました。

第38回	
日時	平成30年11月12日
会場	東京工業大学大岡山キャンパス デジタル多目的ホール
参加者数	107名
講師	矢野 和男 氏 [株式会社 日立製作所 フェロー / 東京工業大学 情報理工学院 特定教授]
テーマ	「人工知能はビジネスをどう変えるか」
内容	日立製作所 フェローであり、東京工業大学 情報理工学院 特定教授を務めておられる矢野 和男氏をお招きし、「人工知能はビジネスをどう変えるか」をテーマにお話しいただきました。

第37回	
日時	平成30年7月11日
会場	川崎市コンベンションホール ホールA
参加者数	118名
講師	安西 祐一郎 氏 [独立行政法人日本学術振興会顧問／学術情報分析センター所長／同振興会前理事長]
テーマ	「日本のAI技術戦略とAIの未来」
内容	独立行政法人日本学術振興会前理事長であり、現在、同振興会顧問・学術情報分析センター所長を務めておられる安西祐一郎氏をお招きし、「日本のAI技術戦略とAIの未来」をテーマにお話を頂きました。

第36回	
日時	平成30年3月27日
会場	川崎市産業振興会館
参加者数	103名
講師	樋口 武男 氏 [大和ハウス工業株式会社 代表取締役会長／CEO]
テーマ	「先の先を読む経営 創業者石橋信夫に学ぶ」
内容	大和ハウス工業株式会社代表取締役会長であり最高責任者（CEO）である樋口 武男 氏をお招きし、「先の先を読む経営 創業者石橋信夫に学ぶ」をテーマにお話を頂きました。 経営をするにあたって、何をしたら儲かるのかを先に考えるのではなく、どんな事業がどんな商品が、世の中の人々に喜んでいただけるかという事を考えていかなければいけません。また、国内だけで売り上げを上げるのではなく、世界を観なければいけない時代となってきています。樋口氏のこれまでの経験や創業者石橋氏から学んだことをもとに、これからの経営のありかたについてお話を伺いました。

第35回	
日時	平成29年11月28日
会場	■株式会社ミトヨ ■かながわサイエンスパーク (KSP)
参加者数	100名
講師	坂井 知峰 氏 [株式会社ミトヨ 取締役常務執行役員]
テーマ	『「長さを測る歴史」と最先端の計測技術』
内容	<p>株式会社ミトヨ取締役常務執行役員の坂井 知峰 氏をお招きし、『「長さを測る歴史」と最先端の計測技術』をテーマに、マイクロメータの始まりから最先端の計測機器管理まで、お話を頂きました。</p> <p>現代社会で生産される、自動車や家電などの様々な製品の製造には、正確に長さを測り、加工することが欠かせません。測定の歴史を振り返ると、今から約4000年以上前である紀元前2700年頃に、エジプト等において「身体尺」という体の一部を用いて長さを測っていた事例が知られています。その後、産業革命の時代である18世紀中頃には、「精密測定」の始まりとも言える、マイクロメータがジェームズ・ワットにより考案されました。</p> <p>その後、1メートルの長さを決める基準となるメートル原器が作成され、現在では光周波数コムを用いた、より精度の高い基準が用いられています。このように高度化する測定の世界において、国産マイクロメータの生産から技術を改良し続け、日本の精密測定をリードしてきたミトヨの持つ最先端の技術と、国家標準であるトレーサビリティについてお話を伺いました。</p>

第34回	
日時	平成29年7月10日
会場	川崎市産業振興会館
参加者数	108名
講師	秋山 仁 氏 [東京理科大学 教授、同大学理数教育研究センター長、同大学数学体験館館長、同大学資料館館長]
テーマ	「発想の泉を掘り起こそう」
内容	<p>東京理科大学教授で数学者の秋山 仁 氏をお招きし、「発想の泉を掘り起こそう」をテーマに、数学の実演や実験を交えながらお話を頂きました。現在の数学の試験は、多くの知識や公式を知っている者による「難問早解きコンテスト」になっておりますが、発明や発見、開発をするためには、知識をため込むよりも、困難や失敗に直面した時に良いアイデアを出すための、「創意や工夫を重ねる粘り強さ」の方が大切です。また、発見や発明には大別して「常識否定タイプ」と、偶然に遭遇した出来事に対する深く鋭い観察眼から生み出される「セレンディピティタイプ」の二つのタイプがありますが、何もせずに偶然にアイデアが閃くことはなく、「常にそのテーマについて考えること」により結果として優れたアイデアに繋がることから、課題を発見し、考えることの重要性についてお話を伺いました。</p>

第33回	
日時	平成29年3月15日
会場	川崎市産業振興会館
参加者数	96名
講師	藤沢 久美 氏 [シンクタンク・ソフィアバンク 代表]
テーマ	「科学技術が人間や社会をどのように変えていくか？」
内容	<p>シンクタンク・ソフィアバンク 代表 藤沢 久美 氏をお招きし、「科学技術が人間や社会をどのように変えていくか？」をテーマにお話を頂きました。</p> <p>近年話題となっている、I O T、バイオテクノロジー、ナノテクノロジーの3つの技術を核とする「第4次産業革命」によって、人間の果たすべき役割が変わるとともに、社会の在り方も変わって行きます。また、自動運転や再生医療など、新しい技術の発達に伴い、新しいルール作りも必要となります。このような革命の時代において、我々が次の100年を見据え、どう動いていくべきかについてお話を伺いました。</p>

第32回	
日時	平成28年11月9日
会場	かながわサイエンスパーク (KSP)
参加者数	61名
講師	内田 裕久 氏 [株式会社ケイエスピー 代表取締役社長、東海大学 工学部 原子力工学科 教授]
テーマ	「日本のエネルギー政策と水素エネルギーの展望」
内容	<p>かながわサイエンスパークにおいて、レンタルオフィス・ラボや高度計測センター、光触媒ミュージアム等の施設見学会と併せて開催しました。話題提供では、株式会社ケイエスピー 内田 裕久 社長から「日本のエネルギー政策と水素エネルギーの展望」をテーマにお話を頂きました。</p> <p>東日本大震災以来、多くの原子力発電所はストップし、日本のエネルギーのバランスは大きく変わりました。日本のエネルギー源は海外からの輸入に頼っていることから、より一層の再生可能エネルギーや水素エネルギーの活用が必要となっています。</p> <p>高度経済成長の時代に公害を体験した日本が、今までに培ったクリーンエネルギー技術を産業として伸ばしていく事の重要性と、そのためには大学や行政だけでなく産業界と一緒に動くこと、規制緩和が必要であることについてお話を伺いました。</p>

第31回	
日時	平成28年8月19日
会場	ミューザ川崎セントラルタワー「国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）21階会議室」
参加者数	124名
講師	喜連川 優 氏 [国立情報学研究所 所長、東京大学生産技術研究所 教授]
テーマ	「ビッグデータのインパクト =ビッグデータはAIの食糧、IOTはビッグデータの生成源=」
内容	<p>国立情報学研究所 所長、東京大学生産技術研究所 教授 喜連川 優 氏をお招きし、「ビッグデータのインパクト=ビッグデータはAIの食糧、IOTはビッグデータの生成源=」をテーマにお話を頂きました。</p> <p>近年のコンピュータの能力の向上によって、車の自動運転、医療診断、自然言語に対する質問応答、囲碁の対戦など、様々なことができるようになってきました。また、WEB上の文章や、医療カルテ、加速度センサー等により取得した、従来と比べはるかにデータ量の大きいビッグデータの活用により、AIの解析精度も上がっています。企業や自治体が持っているデータを積極的に活用することで、交通事故の減少など、社会の課題解決につながるについてお話を伺いました。</p>

第30回	
日時	平成28年2月10日
会場	ソリッドスクエアビル「ソリッドスクエアホール」
参加者数	96名
講師	向井 千秋 氏 [東京理科大学 副学長]
テーマ	「宇宙環境を利用した科学技術イノベーション」
内容	<p>日本人女性初の宇宙飛行士である 東京理科大学 副学長 向井 千秋 氏をお招きし、「宇宙環境を 利用した科学技術イノベーション」をテーマにお話を頂きました。宇宙環境は、微小重力、高真空、良好な視野、宇宙放射線など、地上では容易に得ることのできない特徴があり、その宇宙環境を利用することにより、極めて広範な分野にわたる研究や実験、観測などを行うことができます。また、「無重力環境」、「宇宙放射線環境」、「閉鎖環境」という人間にとって過酷な環境で生活する宇宙飛行士を観察し、宇宙飛行士に対する臨床だけでなく、地球上の医療にも貢献する医学的研究が行われており、そうした宇宙環境を利用した研究開発や地球上への成果還元の動向についてお話を伺いました。</p>

第29回	
日時	平成27年11月17日
会場	日本電産株式会社 中央モーター基礎技術研究所
参加者数	126名
講師	①福永 泰 氏 [日本電産株式会社 中央モーター基礎技術研究所長] ②赤津 観 氏 [芝浦工業大学 工学部 電気工学科 教授]
テーマ	①「2025年、50円スパコンでモーターが自律動作する社会」 ②「省エネモーターが地球を救う。モーターの高効率化と低価格化の取り組み。」
内容	日本電産株式会社 中央モーター基礎技術研究所にて見学会と併せて開催、話題提供では、日本電産株式会社 中央モーター基礎技術研究所 福永泰 所長と、芝浦工業大学 工学部 電気工学科 赤津 観 教授より「モーターが切り開く21世紀の未来社会」をテーマにお話しを頂きました。福永所長からは、産業界からの提言として、モーターが自律動作する新社会インフラの実現を目指す取り組みを紹介していただきます。また、赤津教授からは、大学からの提言として、モーターの高効率化への取り組み事例や、将来に向けた低コストモーターへの取り組みを紹介頂きました。

第28回	
日時	平成27年6月15日
会場	川崎市産業振興会館
参加者数	76名
講師	久間 和生 氏 [内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 議員]
テーマ	「我が国の科学技術イノベーション戦略」
内容	内閣府に重要政策に関する会議の一つとして設置されている総合科学技術・イノベーション会議の議員 久間和生氏をお招きし、「この国の未来のかたち」を決める鍵であり、我が国が直面する課題を乗り越えるための切り札とされる「科学技術イノベーション」をテーマにお話しを頂きました。

第27回	
日時	平成27年2月17日
会場	■川崎生命科学・環境研究センター (LiSE) ■ナノ医療イノベーションセンター (iCONM)
参加者数	113名
講師	片岡 一則 氏 [東京大学大学院 工学系研究科・医学系研究科 教授]
テーマ	「ナノバイオテクノロジーが拓く未来医療 ～あらゆる微小空間で生体機能をコントロールする革新技术の創製～」
内容	[第1部]【ナノ医療イノベーションセンター (iCONM) 見学】 [第2部]【講演】川崎市・殿町国際戦略拠点「KING SKYFRONT」に整備され、開設間近の「ナノ医療」研究開発拠点である「(仮称)ナノ医療イノベーションセンター」の見学会とあわせて開催しました。話題提供では、当センターの研究リーダーでありナノ医療の権威である東京大学の片岡一則教授より、ナノバイオマテリアル、特に薬物・遺伝子デリバリー用の材料開発を中心にお話しを頂きました。

第26回	
日時	平成26年10月22日
会場	東芝スマートコミュニティセンター
参加者数	121名
講師	佐々木 則夫 氏 [株式会社東芝 取締役副会長]
テーマ	「成長戦略を支えるエネルギー・ソリューション」
内容	[第1部]【東芝スマートコミュニティセンター見学】 [第2部]【講演】東芝のスマートコミュニティの実現に向けた中核拠点として2013年10月に開所した「東芝スマートコミュニティセンター」、2014年1月にリニューアルオープンした「東芝未来科学館」の見学会とあわせて開催しました。話題提供では、東芝取締役副会長の佐々木則夫様よりエネルギーソリューションについてお話しを頂きました。

第25回	
日時	平成26年5月21日
会場	川崎市産業振興会館
参加者数	116名
講師	平 朝彦 氏 [独立行政法人海洋研究開発機構 理事長、東京大学名誉教授]
テーマ	「地球深部探査船『ちきゅう』が拓く海洋立国イノベーション」
内容	人類史上初めてマントルや巨大地震発生域への大深度掘削を可能とする掘削船「ちきゅう」の観測による、巨大地震の発生メカニズム、地球環境の変動、地下生命圏、新しい海底資源の解明など、まさに海洋立国を支えるイノベーションの最新動向について お話を伺いました。

第24回	
日時	平成26年2月12日
会場	川崎商工会議所 K C C I ホール
参加者数	141名
講師	山海 嘉之 氏 [筑波大学大学院 教授、サイバニクス研究センター センター長、CYBERDYNE株式会社 CEO]
テーマ	「未来を開拓するイノベーション 健康長寿社会を支えるサイバニクスと革新的ロボット医療福祉機器」
内容	新学術領域【サイバニクス】を開拓し、これを駆使することで、社会が直面する超高齢社会の課題解決と新産業創出、そして人材 育成を同時展開し、未来を開拓するイノベーションを推進してこられた中で、基礎研究から臨床研究、産業展開にいたるまでの 一連の流れを成功に導いてこられた経緯についてお話を伺いました。

第23回	
日時	平成25年10月11日
会場	<ul style="list-style-type: none"> ■ 川崎生命科学・環境研究センター（LiSE） ■ 公益財団法人 実験動物中央研究所
参加者数	121名
講師	<ul style="list-style-type: none"> ■ 馬来 義弘 氏 [公益財団法人神奈川科学技術アカデミー理事長] ■ 馬飼 野信一 氏 [公益財団法人神奈川科学技術アカデミー専務理事、地域イノベーション戦略支援プログラム プロジェクトディレクター] ■ 阿部 啓子 氏 [KAST健康・アンチエイジング プロジェクトリーダー、東京大学大学院 特任教授]
テーマ	「世界に貢献する生命科学・環境分野のイノベーション創出に向けて」
内容	<p>[第1部]【実験動物中央研究所見学】【川崎市環境総合研究所見学】【川崎市健康安全研究所見学】【KAST LiSE Lab. 見学】</p> <p>[第2部]【講演】生命科学・環境分野のイノベーション創出を目指し、キングスカイフロントにおける中核的な施設として開設された「実験動物中央研究所」、「川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）」の見学会とあわせて開催いたしました。</p>

第22回	
日時	平成25年5月21日
会場	川崎市産業振興会館
参加者数	104名
講師	古川 一夫 氏 [独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事長]
テーマ	「技術革新がもたらす社会変革と展望」
内容	<p>オープン化・グローバル化がすすむ中で、技術革新のグローバル展開を強化することで、従来とり組んできたわが国の競争力強化に加えて、環境・社会問題の解決など世界各国の社会変革への貢献が期待される中、「技術革新による産業技術の競争力強化」と「グローバル展開」をキーワードとして、わが国の「イノベーションの広がり」に向けた今後の展開についてお話を伺いました。</p>

第21回	
日時	平成25年2月6日
会場	川崎市産業振興会館
参加者数	96名
講師	的川 泰宣 氏 [独立行政法人宇宙航空研究開発機構 名誉教授]
テーマ	「開発における発想力・実行力・創造力」
内容	従来よりつづけてきた科学技術の社会貢献についてさらに議論を深めるため、「はやぶさ」プロジェクトの成功秘話を交えながら、開発・プロジェクトを成功にみちびく発想力・実行力・創造力の重要性和、宇宙開発・宇宙技術の成果を社会の向上につなげていくためのポイントについてお話しを伺いました。

第20回	
日時	平成24年10月3日
会場	慶應義塾大学 [第1部]新川崎タウンキャンパス [第2部]日吉キャンパス
参加者数	102名
講師	小池 康博 氏 [慶應義塾大学 理工学部 教授]
テーマ	「世界最速プラスチック光ファイバーと高画質・大画面ディスプレイによるFace-to-Faceコミュニケーションの世界」
内容	[第1部]【小池研究室見学】【清水研究室見学】 [第2部]【講演】第1部見学会では、「慶應義塾大学フォトニクス・リサーチ・インスティテュート (KPRI)」と「電気自動車研究室」を見学。続く会場討議では、見学内容を中心に、小池教授が取り組まれている研究内容についてお話しを伺いました。

第19回	
日時	平成24年5月30日
会場	ラゾーナ川崎プラザソル
参加者数	92名
講師	大西 隆 氏 [日本学術会議 会長、東京大学工学系研究科 教授]
テーマ	「安全・安心社会に向けた科学技術の役割」
内容	従来議論を続けてきた社会課題解決に向けた科学技術の役割についてさらに議論を深めるべく、今後の復興における学術界の司令塔的なお立場からこの問題についてお話しを伺いました。

第18回	
日時	平成24年2月3日
会場	川崎市総合福祉センター
参加者数	90名
講師	柏木 孝夫 氏 [東京工業大学大学院 教授]
テーマ	「社会要請に応える環境・エネルギー戦略のグランドデザイン」
内容	東日本大震災による原子力発電所事故と電力需給への危機感により、低炭素社会実現に加え、エネルギー供給体制の見直し・効果的な新エネルギー開発が迫られる中、日本社会が進むべき環境・エネルギー戦略のグランドデザインについてお話しいただきました。

第17回	
日時	平成23年10月20日
会場	■教育文化会館 ■第一高周波工業水江工場
参加者数	88名
講師	小林 良治 氏 [第一高周波工業株式会社 取締役 機器事業部事業部長]
テーマ	「創造する力で世界に求められる“ものづくり”を貫く」
内容	[第1部]【概要説明】 [第2部]【水江工場見学】 [第3部]【講演】「ものづくり」技術に焦点をあて、環境社会への用途展開について、また、近年同社が取り組んでおられる、100℃～1000℃の蒸気が発生可能な蒸気過熱装置、構造物等の歪測定に有効な光ファイバーセンシングシステム、鉄筋をIH熱間成形加工するTヘッド工法鉄筋などについて話題提供をいただきました。

第16回	
日時	平成23年6月10日
会場	ラゾーナ川崎プラザソル
参加者数	121名
講師	吉川 弘之 氏 [独立行政法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター長]
テーマ	「持続性社会を実現するためのイノベーション戦略」
内容	人類社会共通の脅威にスポットをあて、未曾有の事態に対し、復興と再生に向けた科学技術の貢献やあり方と、現代の世界が抱える社会的課題を解決し、持続性がある社会を実現するための科学技術はどうあるべきかについて、皆様方の意見もいただきながら議論を深めていきました。

第15回	
日時	平成23年2月7日
会場	川崎市産業振興会館
参加者数	102名
講師	細野 秀雄 氏 [東京工業大学 応用セラミックス研究所 教授]
テーマ	「元素戦略の目指すもの：希少元素危機は飛躍の好機」
内容	「元素戦略プロジェクト」等、従来にない新しい研究開発手法や科学技術分野を通じてのイノベーションの創出を目指す動きが始まっている中、資源小国である日本にとっての元素戦略が生み出すイノベーションの意義や、方向性についてお話しいただきながら、従来議論して参りました「研究開発と社会貢献」について引き続き議論を深めていただきました。

第14回	
日時	平成22年10月19日
会場	東芝科学館・小向工場
参加者数	117名
講師	前川 治 氏 [株式会社東芝 電力システム社統括技師長] “原子力発電やスマートグリッド、電池等の環境負荷低減技術”
テーマ	「環境・エネルギーから見た電力社会インフラシステム技術の動向」
内容	[第1部]【東芝科学館見学】 [第2部]【講演】近年の世界的規模での環境問題への取り組み、最近の資源・エネルギーの供給逼迫など21世紀のグローバル課題である環境・エネルギー問題に焦点をあて、そうした課題を解決し次世代の成長エンジンの種となる強い技術の創造に求められるポイントについて議論を深めていただきました。

第13回	
日時	平成22年6月2日
会場	川崎市産業振興会館
参加者数	105名
講師	小宮山 宏 氏 [株式会社三菱総合研究所 理事長、東京大学 総長顧問]
テーマ	「『課題解決先進国』日本の役割」
内容	現在、日本社会が直面する少子高齢化、エネルギー・環境問題は世界をリードする先進性があり、それは試練であるとともに解決に成功したら大きなチャンスになり得るのではないかと？そうした問題解決や研究開発により新しい産業、新しい社会システムを創造していくことが日本のこれからの重要な役割であり、そうした課題を解決していく具体ビジョンについて議論を深めていただきました。

第12回	
日時	平成22年2月16日
会場	ラゾーナ川崎プラザソル
参加者数	91名
講師	林崎 良英 氏 [独立行政法人理化学研究所 バイオミックス基盤研究領域 領域長]
テーマ	「既存概念をくつがえす研究開発の原動力とその波及効果 ～基礎分野の創造的研究とその社会還元」
内容	生物を構成する分子構造を網羅的に研究する中、派生的に生まれたゲノム関連研究の成果を社会に対して直接的に還元する研究開発について、従来議論してきた「社会に貢献する研究開発のあり方」の、特に基礎研究の分野からスポットをあてて議論を深めていただきました。

第11回	
日時	平成21年9月17日
会場	日本電気（株）玉川事業場
参加者数	87名
講師	山田 敬嗣 氏 [日本電気株式会社C&Cイノベーション研究所 研究所長] “30年後の社会を創造するための情報通信技術の研究開発戦略”
テーマ	「未来開拓研究開発の最前線と今後の展望」
内容	[第1部]【研究所概要説明・技術紹介】大規模データストリーム技術、音声認識技術、画像プロセッサ I M A P とその応用 [第2部]【講演】日本電気株式会社 玉川事業場において、同社が取り組む最新の研究開発についてデモンストレーションを交えた紹介を行い、続く会場討議では、同社が30年前から提唱してきたC&C 概念、すなわち通信とコンピュータシステムとの融合が達成されつつある現在、次の30年に向けての研究開発はどうあるべきか、といった側面から話題提供をいただきました。

第10回	
日時	平成21年5月27日
会場	川崎市産業振興会館
参加者数	85名
講師	相澤 益男 氏 [総合科学技術会議 議員]
テーマ	「イノベーションが創る日本の未来～きびしい時代を切り拓くための『選択・集中・調整』」
内容	過去のサロンで深めてきた、科学技術・研究開発現場と社会・生活の間をつなぐ仕組みについて等を踏まえ、今回のサロンでは、国や民間がとり組むべきそれぞれの役割、国の科学技術戦略における「選択と集中」、研究開発の現場における「選択と集中」について、相互に関係付けるための幅広い議論を展開しました。

第9回	
日時	平成21年2月6日
会場	ラゾーナ川崎プラザソル
参加者数	93名
講師	吉田 博一 氏 [エリーパワー株式会社 代表取締役社長]
テーマ	「環境が変わるこれからの経済・社会～電気自動車とリチウムイオン電池が地球を救う」
内容	第9回では、従来の話題を受けて優れた研究開発の成果の実用化・事業化をとおして社会に還元させるまでの道のりについて、話題提供をいただきました。続く会場討議では、御参加いただく研究者・技術者の方々と講師の先生を交え、研究成果の事業化にあたり求められる社会・経済面などバックグラウンドのあり方を中心に議論を深めました。

第8回	
日時	平成20年11月5日
会場	ミューザ川崎シンフォニーホール市民交流室
参加者数	70名
講師	<ul style="list-style-type: none"> ■ 北澤 宏一 氏 [独立行政法人科学技術振興機構 理事長] “日本のおかれた環境変化と未来の科学技術” ■ 長谷川 哲也 氏 [東京大学大学院理学系研究科 教授] K A S T“重点研究室「透明機能材料グループ」”研究紹介
テーマ	「日本のおかれた環境変化と未来の科学技術～未来を拓く科学技術・研究者の夢と挑戦」
内容	従来のサロンで議論をすすめてきた科学技術と社会との関係について、さらに深掘りすべく、最近の日本経済・社会を巡る状況をふまえ、これからの科学技術の向かう方向について話題提供をいただき、続く会場討議では、御参加いただいた研究者・技術者の方々と講師の先生方を交えたディスカッションを中心に議論を深めました。

第7回	
日時	平成20年6月30日
会場	明治大学生田キャンパス
参加者数	78名
講師	<ul style="list-style-type: none"> ■山元 洋氏 [明治大学 教授・社会連携促進知財本部長] “明治大学における産学連携の現状と将来” ■武野 純一氏 [明治大学 教授] “感情的に反応するロボット”
テーマ	「知の源泉・大学の最先端研究と産学連携」
内容	<p>[第1部]【研究施設見学】構造物試験棟、振動実験解析棟、ロボット科学研究室、機能デバイス研究室、生体関連材料研究室</p> <p>[第2部]【講演】イノベーションを生み出す「知の源泉」であり同時に人材育成の場でもある大学での取り組みにスポットをあて、明治大学 生田キャンパスにおいて次世代の科学技術を担う研究施設群を見学し、同大における研究の最先端と産学連携の実態についてお話いただき、会場討議では積極的な議論が行われました。</p>

第6回	
日時	平成20年2月22日
会場	東京応化工業(株) 本社
参加者数	74名
講師	<ul style="list-style-type: none"> 小野寺 純一氏 [東京応化工業(株) 開発本部 部長] “フォトレジストの開発の現状と今後”
テーマ	「未来創造型の最先端研究開発への挑戦」
内容	<p>「産業の米」と呼ばれて久しい半導体開発の創成期より、半導体デバイス加工用材料の開発・製造・販売を行っておられる同社にて、そのデバイスの性能向上と微細化の関係や材料開発への取り組みについて、「微細加工技術の変遷と将来」とのテーマでお話をいただき、積極的な議論が行われました。</p>

第5回	
日時	平成19年11月5日
会場	味の素(株) 川崎事業所
参加者数	79名
講師	近藤 信雄 氏 [味の素(株) 健康基盤研究所長] “健康価値創造企業を目指して”～過食、運動不足、ストレスがもたらす不健康状態の改善に向けての新たな提言～
テーマ	「社会・生活に貢献する研究開発と企業理念」
内容	[第1部]【施設見学】①「ほんだし」工場②食品グローバル開発センター [第2部]【講演】「健康価値創造企業を目指して」のテーマで同社の取り組む健康事業の方向性についてお話をいただき、御参加いただいた研究者・技術者の方々に御自身の経験をもとに研究開発の成果をいかに社会・生活に貢献させていくかについて議論が行われました。

第4回	
日時	平成19年6月5日
会場	川崎市産業振興会館
参加者数	77名
講師	岸 輝雄 氏 [(独) 物質・材料研究機構 理事長]
テーマ	「日本における科学技術の課題とイノベーションの進め方」
内容	国際的に通用し、かつ社会経済に高い付加価値をもたらす独創的なイノベーションに向けた科学技術の方向、研究開発体制のあり方を中心とする話題提供をもとに、イノベーション創出のための環境整備、そうした環境をいかに作り出すかについて各社で腐心されているポイントについて紹介があり、講師との間で積極的な議論が行われました。

第3回	
日時	平成19年2月8日
会場	テクノハブイノベーション川崎 (THINK)
参加者数	61名
講師	生越 英雅 氏 [JFE技研株式会社 エネルギー環境システム研究部 主任研究員] “水和物スラリーを用いた省エネルギー空調システムの開発経緯”
テーマ	「研究を進める上での壁とその乗り越え方」
内容	[第1部]【施設見学】①THINK SMART②京浜ビル (水和物スラリー省エネルギー空調システム) [第2部]【講演】第1部では「テクノハブイノベーション川崎 (THINK)」で、鋼構造材料ソリューションセンター「THINK SMART」のオープンラボ実験施設群、「水和物スラリー」を活用した省エネルギー空調システムの運用事例を見学。第2部では、研究開発着手から実用化にこぎつけるまでの様々な経緯をお話いただき、会場討議では積極的な議論が行われました。

第2回	
日時	平成18年10月16日
会場	川崎市産業振興会館
参加者数	85名
講師	畑村 洋太郎 氏 [工学院大学 教授]
テーマ	「失敗学のすすめ」
内容	研究開発プロセスにおいて必ず発生する「失敗」を否定的にとらえるのではなく「失敗は創造の種」であることに焦点をあて、時間と共に薄れる失敗の経験をいかに研究開発の現場で活かし創造に繋げるかという話題提供を出発点とし、御参加いただいた研究者・技術者の方々と講師の先生を交えた忌憚のない議論で新しい研究交流の方向性を探りました。

第1回	
日時	平成18年6月6日
会場	かながわサイエンスパーク (KSP)
参加者数	140名
講師	藤嶋 昭 氏 [(財)神奈川科学技術アカデミー 理事長] 西澤 潤一 氏 [首都大学東京 学長]
テーマ	「社会に役立つ科学技術・研究者の使命」
内容	独創性の高い研究成果を生み出し続ける原動力と研究のプロセス、それにより生み出された研究成果をいかに社会に活かすかという趣旨の講演とともに、研究者・技術者の方々と講師の先生方を交えた議論が行われました。